


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 宮津市立栗田中学校 】

1 実践テーマ	【 I ・ III 】
2 実施対象者	1年生 17名 2年生 17名 3年生 18名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①行事名 (オリンピック・パラリンピック教育講演会)
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの意義を理解したり、パラリンピアンを経験を聞いたりすることで、自己決定を通じて力を発揮できることや諦めずに限界を突破しようとする意志の強さを感じることに、さらには多様性を認め、創意工夫をしていくことの大切さを学ぶことで、自分の生き方を考えさせる。
5 取組内容	<p>(1) オリンピック・パラリンピック教育講演会事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ①講演会の目的やねらいの確認 ②パラリンピックについて ③講師「2020年東京パラリンピックアーチェリー出場 上山友裕様」の紹介 <p>(2) オリンピック・パラリンピック教育講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日 時 令和3年12月8日(水) 11:00~12:30 ②場 所 zoom を利用した、オンライン講演会 ③講 師 2020年東京パラリンピックアーチェリー出場 上山友裕様 (大阪/GOLD)
	
	<ul style="list-style-type: none"> ④講演会の感想記入 ⑤講師からの心に残る一言等 「目標は変えても、夢は変えない。」 「障害者を助けるのではなく、困っている人を助ける。」

<p>6 主な成果</p>	<p>○明るく前向きに、夢に向かって努力をし続けるパラリンピアンのお話を聴き、自分のこれからの生き方を見つめることができた生徒もあり、大変有意義であった。</p> <p>○障害者理解や共生社会について考える上で、大変有効であった。</p> <p>○東京パラリンピックに出場された方の話を聴き、パラリンピックへの興味・関心が深まるとともに、アーチェリーにも興味を深めることができた。</p> <p><生徒感想抜粋></p> <p>「一番印象に残っているのは、『目標は変えても、夢は変えない』という話です。諦めそうになることはあるけど、始めに決めた自分の夢は絶対にぶれさせないと心の中で強く思いました。」</p> <p>「印象に残ったのは、障害者を助けるのではなく、困っている人を助けることです。中学生になって福祉体験活動を学ぶ機会があり、障害者を見たら助けるという思いが強くなっていました。だけど、この講演会で、障害者だけでなく困っている人がいたら助けようと思いました。」</p> <p>「いきなり高い目標をもつのではなく、小さいことをこつこつ重ねて、大きな目標を達成できるかっこいい人になりたいです。」</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○夢に向かって努力をし続けるパラリンピアンから、自分のこれからの生き方を考えさせた。</p> <p>○パラリンピックの意義だけでなく、競技種目や選手についても考えを深め、パラリンピアン意志の強さを考えさせた。</p> <p>○多様性を認めることや共生社会について考えさせた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○オリンピックやパラリンピアン講師依頼が難しい。</p> <p>○最近はテレビやCMなどでパラリンピックに関する映像を見ることが増えたが、実際の競技を見る機会が少ないため、イメージさせることが少し困難だった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○オリンピック・パラリンピックの意義を理解させ、目標や夢に向かって努力をし続けるアスリートから、自分のこれからの生き方を考えさせる。</p> <p>○人間の多様性や障害者理解、共生社会について考える機会とする。</p>